

## 第6節 高校3年生

### 生き方を探るⅡ

松本真一・佐藤俊樹  
中村忍・加藤容子  
今村敦司・鈴木善晴

**【抄録】** 「生き方を探る」という大テーマのもと、本校での自分の興味関心に基づく学習の集大成として高校3年生が取り組んでいる総合人間科。授業、学びの杜、基礎セミナー、中津川プロジェクト、生徒研究員制度等、様々な場で自分の興味関心のあることを選び追究してきた生徒が、自分の将来について考える機会を有効に生かして進路選択を行っている。

**【キーワード】** 選択 生き方 興味関心

#### 1. 学習計画

年間計画は次の通り

(前期)

回	日	授業内容(予定)	使用教室
1	4/11	第2限; 概要説明・アンケート	図書館
2	4/18	第6限 進路希望系統別グループ発足	HR社会書道 被服
3	4/25	フィールドワーク先検討①	HR社会書道 被服
4	5/16	フィールドワーク先決定完了	HR社会書道 被服
5	5/23	フィールドワーク先 依頼状発送完了	HR社会書道 被服
6	5/30	フィールドワーク	
7	6/6	フィールドワーク先へのお礼 状発送 フィールドワーク報告会準備	HR社会書道 被服
8	6/27	フィールドワーク報告会: グループ内 小論文ガイダンス	HR社会書道 被服
9	9/12	スピーチ原稿・集録原稿執筆 ①	HR社会書道 被服
10	9/26	スピーチ原稿・集録原稿執筆 ②	HR社会書道 被服
11	10/3	グループ内スピーチ	HR社会書道 被服

(後期)

12	11/7	学年全体でのスピーチ	第1総合
13	11/28	研究集録原稿完成	HR社会書道 被服
14	1/9	まとめ	第1総合

実施会場は学年および研究部との調整により行う。  
(各教室、社会科教室、書道室、被服室、図書館、コンピューター室) 課題の内容の濃淡により適宜、LTなど

の時間を利用した。

#### 2. 学年目標、ねらい、伸ばしたい力など

生徒が、自己形成の過程を振り返り、現在の興味関心を確認することにより、主体的に生き方を選択することができる力を育てる。また、進路問題を個人の問題とはせず、系統別グループ内で検討することで、自分の興味関心のある分野について多角的に検討するチャンスを提供し、実りある進路選択を行うことができようになりたい。具体的には、学外でのフィールドワークによって自分の進路決定に関わる人から直接学んだり、スピーチや研究集録の形式で自らの意識を発表することで、自分の将来に対する認識を深め、総合人間科の目標である「自分の人生を自覚的に選択する力を育てる」ことの達成を図る。

#### 3. 活動内容

前期：フィールドワークとその報告会

後期：スピーチ(グループ内/全体)、研究集録作成

#### 4. 評価基準と方法

方法

- (1) 教員による評価(FW等の取り組み、発表、集録)
- (2) 生徒による自己評価(アンケート、発表や一年間の振り返り)
- (3) 友達による評価(話し合い、発表)

基準

- ・自分自身の進路を、今まで学んできた過程を踏まえて説明することができる。

#### 5. 系統性

前年度とのつながり

- ・沖縄での平和学習が進路意識の形成に寄与した生徒がいれば考慮する。

## 6. 高校3年グループ別フィールドワーク訪問先一覧

## 幕の内弁当G

テーマ	大学等訪問先	部署・学部・学科・専攻	担当者
自分と心理学	本校スクールカウンセラー		石田幸子
総人を振りかえって	名古屋芸術大学		木村美奈子
恋発達	本校スクールカウンセラー		石田幸子様
はあっとりさああん！！	名古屋大学	教育学部	平石賢二
現代日本語学のあり方	中日新聞	編集局校閲部	中川友二
主役はだれ？	名古屋学芸大学	ヒューマンケア学部	渡辺桜
私の製造過程	名東警察署	警務課	警務課の方
My Dreams	南山大学	人文学部人類文化学科	黒沢浩
What have made me "me"	名古屋大学	法学部	三浦 聡
あるハーフの自分史	南山大学	人文学部心理学科	加藤隆雄
なりたい自分になるために	愛知淑徳大学	人間情報学部	牧勝弘
生き方を探る	名古屋大学	教育学部	松田武雄
憂鬱質とクリエイティブ。	名古屋芸術大学		木村美奈子
補助券訓練士になりたい野宮は人を考える 作業療法士になります	介助犬総合訓練センター	広報部	柴原永佳
夢	河合塾学園	トライデントビューティ・ ブライダル	佐藤 優
チキンからの脱出	名古屋大学	教育学部	平石賢二
自分史（イージーモード）	フォルテシモ アッシュ		店員
そして僕はヒロになった。	名古屋大学	情報文化学部	安田孝美
文化学と言語学	名古屋外国語大学	外国語学部英米語学科	宇治谷映子
学び	名古屋大学	教育学部	高井次郎

## 日本の社会が大事だということをここで何度も確認しておきますG

テーマ	大学等訪問先	部署・学部・学科・専攻	担当者
LAOS！	日進市立竹の山小学校		岩田智行
次世代リーダーの育成	同志社大学	政策学部	太田肇
瀬川祐斗～この星に生まれて～	名古屋大学	エコトピア科学研究所	竹内恒博
宋史	名古屋大学	経済学部	星野崇宏准
ないようがないよう	明治製菓	名古屋支社	宇野原
そうだ、海外に行こう。	東海テレビ	報道局	野瀬義仁
女性として生きる ～名大附での6年間を振りかえって～	白鳥庭園	前所長	波多野慧子
弁理士のお仕事	石田国際特許事務所	弁理士	齊藤純子
小島の構成物質	NPO法人	花*花	江部
当たり屋から学ぶ	名古屋大学	教育学部	松本真理子
自分史	名古屋大学	文学部	佐久間淳一
人を動かすコミュニケーション	リクルートコミュニケーションズ	名阪進学ソリューションG	伊藤
日本のリーダーシップのありかた	名古屋大学	文学部・社会学教室	丹邊宣彦
生き方を探る	東海テレビ	報道スポーツ局	中村昌秀
ゲーム理論と経済学	愛知淑徳大学	ビジネス学部	石井良輔
スポーツと真太郎と名大附	南山大学	経営学部経営学科	湯本祐司
受け継ぎ、創り、つなぐ ～タペストリーの中に生きるということ～	名古屋事務	衆議院議員	古川元久
笑顔	名古屋大学	経済学部	星野崇宏准

「世界」とこれからの自分	名古屋市立大学	人文社会学部	佐野直子
〇〇になりたい	中京大学	法学部	愛知正博
それゆけ マージナルマン	アーティスト		原菜摘

### しの部G

テーマ	大学等訪問	部署・学部・学科・専攻	担当者
研究	藤田保健衛生大学	総合医科学研究所	土田邦博
未来を切り拓くために*～研究者への第一歩～	名城大学	農学部 応用生物化学科 食品機能学研究室	芳賀聖一
まるちゃんのナゾに迫る	東洋水産	水産食品本部名古屋営業所	杉 隆一
総合人間科について	名古屋大学大学院	理学部多元数理科学研究科	足立真訓
曖昧me	名城大学	農学部	芳賀聖一
起源を探る天文学を研究する！	名古屋大学大学院	理学研究科	福井康雄
自分史	名古屋大学大学院	理学部多元数理科学研究科	足立真訓
病気から学ぶ			
6年間を振りかえってみて	名古屋大学大学院	生命農学研究科	中野秀雄 授
海洋生物の生態系・生物多様性	東海大学	海洋科学博物館	柴 正博
13→18	名古屋大学	理学部物理学科	久野純治
離散数学の情報科学への応用	名古屋大学大学院	情報科学研究科	神保雅一
研究者と私	名古屋大学	農学部 応用生物学科	黒田俊一
6年間の総合人間科を振りかえって	名古屋大学	農学部	学生
海洋酸性化	東京海洋大学	先端科学技術研究センター	川合美千代
獣医師について	岐阜大学	応用生物科学部	志水泰武
6年の総人の反省	岐阜大学	応用生物科学部	
海洋環境と生物	名古屋大学博物館	理数系研究科准教授	大路樹生

### I (industry) G

テーマ	大学等訪問先	部署・学部・学科・専攻	担当者
やってきたこと やりたいこと	名古屋大学	工学研究科	
音響学	名古屋大学	武田研究室	武田一哉
電脳程式設計師の天地	名古屋大学	情報科学研究科	坂部俊樹
スマートフォンアプリ開発	Goodia		梶澤 直晃
高校3年間の総人	名城大学	理工学部応用化学科	坂 えり子
僕塗装人	名古屋大学大学院	環境学研究科	小松尚
化学工学と医療 ～6年間を振りかえって	名古屋工業大学	生命物質工学科	杉本英樹
航空整備士	中日本航空専門学校		みわ
自分について	名城大学	理工学部応用化学科	田中敏光
建築士と建築史	名古屋大学大学院	工学研究科	堀田典裕
航空機と未来	三菱重工業株式会社		技術職の方
勇往邁進	ドバツツ・ライノハウス		斉場孝由
自分史	名古屋大学大学院	創薬科学研究科	北村雅人
建築設計と周辺環境	日建設計		羽鳥達也
関わってきた専門職	三重大学	工学部	石原篤
総人は僕を強くした	名古屋大学大学院	工学研究科	亀山達矢
自分の進む道	名古屋大学大学院	創薬科学研究科	加藤竜司
機械工学・生産工学・切削工学	名古屋大学	工学部	社本英二
桑名に育って	名城大学	理工学部情報工学科	川澄未来子

## 女医Sound ～時々男～G

テーマ	大学等訪問先	部署・学部・学科・専攻	担当者
看護師	名市大	看護学専攻	大島千佳
子ども	名市大	医学部小児科医	安藤直樹
夢	名市大	免疫学教室	今井優樹
薬学に関する6年間の総合人間科を振りかえって	名市大	臨床薬学教育センター	鈴木匡
小さなことを大きな夢に!	名市大	看護学専攻	大島千佳
作業療法	東名古屋病院附属リハビリ学院	作業療法学科	目良
看護師の役割	名市大	看護学専攻	大島千佳
私と総人	名古屋大学大学院	医療技術学	小山修司
総合人間科と人生選択	藤田保健衛生大学	医療科学科	寺西利夫
研究職～新薬の開発～	名市大大学院	薬学研究科医療機能	牧野利明
診療放射線技師	名古屋大学	医学部保健学科	小寺教授
歯医者のお仕事	愛知学院大学	歯学部	嶋崎 義浩
スポーツ歯学	愛知学院大学	歯学部	中川昌好
将来について	名市大	医学部実験病態病理学	山下依子
看護師について	名市大病院	看護学専攻	大島千佳
将来の夢	名市大病院	看護学専攻	大島千佳
がん治療とその後	ナーシングホームジャパン	看護学専攻	大島千佳
Education ; sougou-ninngennka's Digest	名市大	臨床薬学教育センター	鈴木匡
放射線 ～医学と社会～	名古屋大学	医学部保健学科	加藤克彦

## yo-koの部屋G

テーマ	大学等訪問先	部署・学部・学科・専攻	担当者
夢について	下志段味小学校		高橋陽子
明日につながる大きくてすばらしい人間関係	愛知教育大学	数学教育講座	山田篤史
今までを振り返って	愛知教育大学	学校教育講座	大村恵
加納史	愛知教育大学	情報教育講座	野崎浩成
加納慎恭になるには	愛知教育大学	家政教育講座	筒井和美
子どもの心の理解	愛知教育大学	幼児教育講座	林牧子
「有松の伝統」と「音楽」	ピアノ教室 (個人)		村瀬英美
和太鼓	リンデンプロモーション		林田ひろゆき
今までとこれから	愛知教育大学	学校教育講座	弓削洋子
木下友輔とハンドボール	東海学連		伊藤嘉晃
保育というもの	株式会社ポピンズ	名古屋支社	苗村久美子
アーティストになる	河合塾美術研究所		錦見美季
デザインの話	河合塾美術研究所		川本光成
Home Risnomics	愛知教育大学	家政教育講座	山田綾
スポーツの力～水泳が導いた私の夢	中京大学	スポーツ科学部 スポーツ教育学科	柰子耕一
僕が今まで生きてきた道 僕がこれから生きる道	ヤマハミュージックアベニュー栄		酒井
私と絵	河合塾美術研究所		川本光成
国語の授業のこれから	日本言語技術教育学会	(愛知教育大学教授)	佐藤洋一
歩いていくよ	劇座		丹羽 他
音楽と教育を生かす	愛知教育大学	教育実践講座	石井拓児
私にとって子どもとは	愛知教育大学	幼児教育講座	林牧子

## 7. 今年度の総合人間科の学習内容

### (1)学習方法

個人研究を主として行う。同じ進路を希望する者同士、20人程度のグループを作り（進路系統別グループ）、その中で発表したり、情報交換をしたりして、自らの考えを深め、主体的に自分の進路を選択する。3年生の活動の柱は「フィールドワーク」「スピーチ」「卒業論文」である。

### (2)実践内容

#### ①進路別グループ作成（4月）

#### ②フィールドワーク（5月）

訪問先は、自分の進学先や関係する学部学科の研究室、あるいは興味ある仕事に従事されている方とした。電話によるアポイント取り、依頼状・質問状・御礼状書きを行った。

#### ③オープンキャンパスなど（8月）

夏休み中に各自で希望する学校を訪問したり、進路に関する情報を集めた。また、遠隔地へのフィールドワークを行う者もいた。

#### ④3分間スピーチ（10月）

内容は、自分史的なものか、将来の展望とした。まず、進路系統別グループでの発表をし、その中から選ばれた代表者が学年全体の場でスピーチを行った。

自分のスピーチの内容や水準について、それぞれの生徒が手応えを感じ、達成感を得たようである。また代表生徒の熱のこもったスピーチを聞くことが大きな刺激となった。本音で夢を語るができる、学び合える集団作りが達成されたと感じる事ができた。

#### ⑤卒業論文（12月）

題材は3分間スピーチの内容を膨らませたものとした。活動への取り組みが甘かった生徒も、総合人間科の活動に力を入れて取り組んでいた他の生徒のスピーチに触発され、最後の活動である卒業論文には真面目に取り組む姿勢が生まれた。ほぼ全員が期間までに原稿を提出することができた。

## 8. 成果と課題

高校3年生の総合人間科の研究集録の内容は、3年生に追究したテーマについて書くか、3年生の総合人間科の追究テーマを踏まえて自分のこの学校での6（3）年間を振り返り、今後の展望を考える「自分史」のようなものを書くかを選ぶことができる。この学校の生徒が他の高等学校の生徒と大きく違い、自分の進路に展望を持って先に進もうという意志を持っていることが、自分史の研究集録を読むとよくわかる。また、自分が何を学んできたかを書いている生徒もいる。この研究集録の内容から生徒の学びの中身を拾ってみる。

総合人間科の利点は、自分が学びたいことを自由にテーマ設定できることである。もちろん、大テーマは外せないが、その中でも自らの興味関心を自問自答し、決定し、主体的な学びを経験していく。その最たる例になる記述がある。それは、「研究者と私」というテーマで書いた生徒の中にあった。

…しかし私は自分のなりたいもののために、したいことのために打ち込む職の一つが”研究者”だと思います。憧れますね。（中略）人生は一度です。やりたいことやりたいじゃないですか？

やりたいことをやれる、そんな職業が研究者なんです。素晴らしいと思いませんか？…

もちろん、実際の研究者が全て自分のやりたいことを研究しているわけではない。しかし、自分が夢中になれることを仕事にしたいという主体性あふれるこの生徒も思いは、大学での学びに意欲の面で十分通用するはずだ。この生徒は単に自分の考えたことだけを綴っているわけではない。実際の研究者に何人も話を聞き、その仕事の細かな点や大変さも知った上で「研究者」になりたいといっているのだ。未知の、答えがまだわかっていないことを自分の研究で追究していく魅力をこの生徒は知ったのだ。

また、次のように総合人間科の利点を表現する生徒もいた。

正直なところ、私は1年生の頃には、こんな調べ学習にさしたる意味はあるのだろうか、いやあまりないだろうと思っていた。だが今は、その疑念をはっきりと否定することができる。

私は3年生の時の、即ち今年のフィールドワークで教授から「考え方を磨く」という言葉を聞き、後々になってそのその言葉について悶々と考え、そしてある一つの考えに至った。総合人間科という教科の三年間を通しての大テーマは、「考え方を磨く」なのではないか、と。この考えに辿り着いた後、私は3年間の自らの総人を思い返した。クローン人間と倫理の問題について、異なる文化、異なる考え方について、今後の進路について……。どれもこれもこの一大テーマに沿っているではないか。私のこの考えは、確信に近いものとなった。話は変わるのだが、1年生の時、SLPⅡの授業が一区切りついた後のアンケートに戸惑った覚えがある。1年生の私を困らせた質問は、『科学的に考える』とはどのようなことだと思いますか」というものだった。そのとき私がどのように答えたのか覚えていないのだが、この学校は3年間ずっと考え方を磨くということを私たちに求めていたのだと思う。

現代社会は様々な問題に揺れている。世界の波のう



ねりはとても大きく、人一人の力で止められるもよ  
うなものでは到底ない。そのような状況下で、私とい  
う人間個人ができることといたら自分の頭でしっかり  
物事を考え、自分の意見を持ち、周囲の波に流されな  
いことくらいかもしれない（と私は思う）。そうだと  
してもそれは巨大な波に対抗する私に与えられた数少  
ない手段の一つであるのだから、私はそれを大切にし  
たいと思う。…

引用が長くなったが、「考え方を磨く」ことを、自分  
が社会市民の一員としての武器を磨くことにつなげて考  
えるこの記述は、図らずもSSHの目標である「賢い社  
会市民を育てる」ためにすることを述べている。

総合人間科の取り組みの有用性が最も認識できるのは  
高校3年生である。また。卒業後にはその学習の有用性  
をさらに実感できている感触を卒業生の話から得られて  
いる。その有用性を、現在学んでいる生徒にどのように  
伝え、モチベーションを上げるかということを考えてい  
く必要がある。毎年高校3年生の生徒の一部は、3月に  
中学1年生の生徒に自らの総合人間科の体験を話す取り  
組みを行っている。自分がいかにこの授業を通して自分  
の興味関心を探ってきたかを、語ってくれる。その話は  
また後輩の興味関心を探るモチベーションとなっている。  
私たち教師が総人の有用性を語るよりも実感がこ  
もっているからであろう。

しかし、何の力がどの活動で得られ、有用性の認識に  
寄与しているのかといった、細かな分析をして、今後の  
活動の改善に役立てる研究も必要である。高校3年生の  
熱い感想を読むと、この学校は総合人間科で支えられて  
いることを改めて実感させられた。

(文責：今村敦司)